

保健体育科学習指導案

学 級 3年1・2・3組 バスケットボール選択者

(男子17名 女子22名 計39名)

場 所 伊 敷 中 学 校 体 育 館

授業者 教 諭 椎 原 純 博

1 単 元 球 技 ゴール型「バスケットボール」

2 単元について

球技はボールを媒介として、個人対個人、集団対集団で攻防を展開し得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、チームの課題や自己の能力に適した課題の解決に取り組んだりゲームを楽しんだりする運動である。バスケットボールは、攻防の切り替えが早いので、運動量も多く、ボールコントロールや瞬時に変化する場面に応じた判断力を高めることに適した教材である。また、パスやドリブル、シュートができたときや作戦がうまくいったとき、チームの力が集結されて勝利したときに喜びを感じることができ、練習やゲームを通して役割を分担し合ったり励まし合ったりと運動の楽しさを味わわせながら責任感や協調性を高めるのに適した教材である。

本授業の3年生バスケットボール選択者については、これまで1・2学年において、ゴール近くのセットシュートやジャンプシュート、ドリブルシュート、周囲を見ながらのドリブルやピポットターン、得点しやすい相手へのパスといったボール操作と、シュートが打てる空間に走り込む動きや、守備の際に簡単にシュートを打たれないようにボールを持っている相手をマークするなどの、ボールを持たないときの動きを学習してきた。バスケットボールの経験の差によってボール操作の技能に差が生じてはいるが、積極的にプレーし、運動量を上げて攻守に関与しようとする生徒が多い。

本授業では、1・2学年で学習したボール操作や空間に走りこむ動き等に加え、より正確なシュートや状況に応じたパス、コントロールドリブルやピポットターンを使ったボールキープなどのボール操作と、パスを出したら動く、スクリーンプレイを活用するなどの空間を作り出す動き、守備においてはマンツーマンディフェンス及びゾーンディフェンスを指導する。また、学習資料や作戦ボードを利用し、生徒同士のアドバイスや説明をスムーズに行わせ、思考・判断したことを表現させていきたい。

3 単元の目標

- (1) 自己の役割や責任を果たし、練習や作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、フェアプレーに徹し、勝敗に対して公正な態度をとったりすることができる。また、自他の健康や安全を確保して、自主的に練習やゲームに取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)
- (2) 自己やチームの能力に適した課題を理解し、課題解決を目指して有効な練習方法を工夫したり、自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選択したりすることができる。 (思考・判断)
- (3) 状況に応じたボール操作ができ、仲間と連動することで空間を作り出すなどの動きができる。 (技能)
- (4) 技術の名称や行い方、試合の行い方、球技に関連した体力の高め方について理解することができる。 (知識・理解)

4 単元の指導計画・評価規準（全12時間）

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
指導計画	特性・見直し・進め方・チーム編成 オリエンテーション	整理・あいさつ・健康観察・準備運動・体ほぐし運動										振り返り・反省 学習のまとめ
		I 今もっている技能でゲームを楽しむ ・ドリブル、パス、キャッチ、ボールキープ ・ストップとピポットターン ・セット、ランニングシュート ・ドリルゲーム、アウトナンバーゲーム（空間に走りこむ動き）	II 習得した技能を生かしてゲームを楽しむ ・状況に応じたパスやドリブル、シュート ・ピポットターンやコントロールドリブルを活用したボールキープ・フェイント・ポストプレー ・マンツーマン、ゾーンディフェンス ・パス&ラン、スクリーンプレー ・タスクゲーム、アウトナンバーゲーム（空間を作り出す動き）	III 高まった技能でゲームを楽しむ ・簡易ルールでリーグ戦を行う ・審判法 ・ルール	整理運動・学習のまとめ・次時の確認・健康観察・片付け							
評価規準	関心・意欲・態度	バスケットボールの特性に関心をもち、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、自己やチームの能力に応じた作戦で仲間と連携した練習やゲームを楽しみつつ、自己の責任や役割を果たしながら、健康・安全に留意して積極的に取り組もうとしている。 ① バスケットボールの特性に触れ、仲間と積極的に関わりながら練習やゲームを楽しもうとしている。 ② 自分の責任や役割を理解し、話し合いの場に積極的に参加して貢献しようとしている。 ③ 練習やゲームの場所の安全を確かめ、危険なプレーをしないなど、自他の健康・安全に留意しようとしている。										
	思考・判断	課題解決に向けた練習方法を工夫したり、個人やチームの特徴を踏まえた作戦や戦術を工夫し選択しようとしている。 ① 仲間のアドバイスや指示を生かし、チームや自分の能力に合った課題を見付けることができる。 ② チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法などを選んでいる。 ③ チームの特徴や相手チームに応じた作戦や戦術を工夫しようとしている。										
	技能	安定したボール操作と、空間を作り出すなどの動きによってゴール前の侵入などから攻撃を展開することができる。 ① ゲームで有効なドリブルやパス、ストップ、シュートといった基本的技能が身に付いている。 ② スペースを活用した動きができ、積極的に攻撃に参加することができる。 ③ 技能の段階に応じて、相手との攻防に適した作戦や戦術で練習やゲームを行うことができる。										
	知識・理解	技術の名称や行い方、試合の行い方、体力の高め方について、学習した具体例を挙げるができる。 ① 基本動作や技能について、名称や動きの構造を説明したり書きだしたりすることができる。 ② 体力や技能を高めるための合理的な練習の仕方、行い方について具体例を挙げるができる。 ③ ルールや審判法について、言ったり、書き出したりしている。										
評価機会と方法	関・意・態	①		③		②				③		
	思・判					①	②	③				
	技 能				①				②		③	③
	知・理		①						②			②
評価方法（見取る方法・手段）												
観察・記録	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学習シート等		○				○	○	○	○			○

5 本時の実際 (7/12)

(1) 題材 球技 ゴール型 「バスケットボール」

(2) 目標

「スペース」を活用した攻撃を工夫しよう (思考・判断)

(3) 授業設計の工夫

「思考・判断」の評価方法の工夫

ア 学習活動に即した評価方法の工夫 **研究の視点4(1)**

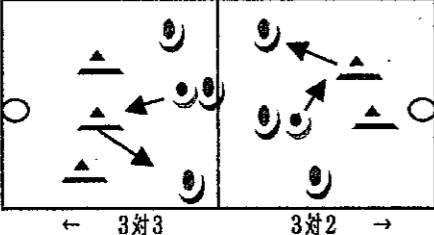
- ・ 評価規準に基づいた目標達成の度合いを判断する目安としての判断基準の設定
- ・ 生徒個人や集団への聞き取りや観察を通して、対話や会話、動きの様子からの見取

評価規準【思考・判断】		
③ チームの特徴や相手チームに応じた作戦や戦術を工夫しようとしている。		
判断の対象		
1. 記録ボードへの記述 2. 対話・会話の様子 3. 動きの様子 (身ぶり手ぶり, 示範, 補助等) 4. 聞き取り		
尺度	判断基準	生徒への手立て
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームの能力や特徴に応じた作戦や戦術を工夫したり、自分やチームメイトの役割や動きを確認し合ったりすることができる。 <p>【予想される生徒の表現例】</p> <p>「みんなが固まりすぎる」 「ボールを奪ったら速攻をしかけよう」 「コートを広く使おう」 「パスを出したら動こう」 「慌てないでじっくり攻めよう」 「身長の高い人がポストプレー」 「マンツーマンディフェンス」</p>	<p>【C状況の生徒への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで行ってきたタスクゲームや、アウトナンバーゲームで上手くいった点を回想させる。 ・ チームや個人の特徴を考えさせ、チーム内で作戦のどの部分を担うのか確認させる。 ・ 学習資料を利用し、動きの具体例や空間の活用の仕方を提示する。
A	<p>(Bに加えて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームの作戦や戦術、個人の役割や動きを、根拠をもって仲間にアドバイス・説明をすることができる。 	<p>【B状況の生徒への手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えたことや、仲間へのアドバイスなど、根拠をもって積極的に言葉や体を使って伝えさせる。 ・ 教師側からの発問 「なぜ・どうして」

イ 評価を生かした指導の工夫と改善 **研究の視点4(2)**

- ・ 学習資料の提示
 学習資料を視覚的に提示することで、自分(たち)の動きを客観的に捉え比較することができ、更なる思考の深まりを援助する手立てとする。
- ・ 記録ボードの活用
 これまでの動きによって経験してきたことを基に、気が付いたり考えたりしたこと、または、これから工夫できることなどをその場で表現しやすくするよう記録ボードを活用する。図解することで、動きのイメージをつかみやすくさせる。

(4) 展開

過程	時間	学習形態	主な学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫
準備 健康観察 準備運動	8分	一斉	1 準備, 安全点検をする。 2 あいさつ・健康観察をする。 3 準備運動を行う。 ・ ランニング (体育館 2周) ・ 体操, 体づくり運動 (サイドジャンプ, サイドステップ等)	○ 場の安全を確認する。 ○ 欠席者, 見学者を把握し生徒一人一人の健康状態を観察する。 ○ 仲間と交流し, 自他の体と心の状態に気付かせながら, 準備運動と体づくり運動をさせる。
		一斉	4 本時のねらいと学習の流れについて確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「スペース」を活用した 攻撃を工夫しよう</div>	○ 本時の学習のねらいや学習の流れを理解させ, 学習の見通しをもたせる。
課題追求 練習 ・ 診断 ・ 思考 ・ 定着 ・ 評価	34分	グループ	5 学習活動Ⅰ 3対2・3対3のゲームを行う。 	○ 前時までの学習を踏まえ, 「スペース」を作り出す動きを確認させる。 (発問) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「スペース」を作り出す動きには, どういう動き (プレー) が有効であったか。</div> ○ パス&ムーヴやスクリーンプレーで出来たスペースの活用を声掛けする。 ○ 基本的技能のチェックをさせ, 個人的技能へのアドバイスをを行う。
		グループ	6 学習活動Ⅱ チームで作戦を考え戦術を練る。 ・ チームの戦術 ・ 個人の役割や動きを確認 ・ 相手チームの特徴を踏まえた守備の方法を選択	◎ チームの能力や特徴に応じた作戦や戦術を工夫したり, 自分やチームメイトの役割や動きを確認し合ったりさせる。[視点4(1)] ※ 記録ボードを用いてチームや個人の動きを確認させ, 作戦や戦術を練らせる。[視点4(2)] ※ 学習資料を視覚的に提示し, 動きを客観的に捉えさせる。[視点4(2)]
		グループ	7 学習活動Ⅲ 練られた作戦や戦術でゲームを行う。 ・ 4分×3試合 ・ ルール, 審判法, ゲームの運営	○ プレーへの積極的な関わりを声掛けし, スペースを活用できたプレーを称賛する。
整理運動 評価・反省 健康観察 あいさつ	8分	一斉	8 整理運動をする。 9 本時を振り返り, 評価反省をする。 10 次時の学習内容を確認する。 11 健康観察, あいさつをする。	○ 入念に整理運動をさせる。 ○ 本時のねらいを再確認し, 本時の学習を振り返らせる。 ○ 生徒の体調を把握し, 後片付けをさせる。